

# 茨城大学学報

第297号

平成23年6月～平成23年7月



オープンキャンパスの様子（水戸キャンパス）

## INDEX

- ◆ 東日本大震災調査報告会を開催
- ◆ 茨城県へ災害義援金を寄附
- ◆ 平成22年度 教養科目推奨授業表彰式を挙
- ◆ 「六角堂」再建に向け周辺の海底調査を実施
- ◆ 茨城新聞広告賞 優秀地域賞を受賞
- ◆ 茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会(第5回)を開催
- ◆ 工学部で、原子力機構による大学公開特別講座を開催
- ◆ オープンキャンパスに6,099名の参加
- ◆ 茨城県中小企業振興公社との連携協定に関する調印式について

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 東日本大震災調査報告会を開催

3月末より東日本大震災調査団を結成し、茨城県の被害調査を開始しました。調査には、学内の5学部と主要なセンターから120名以上の教職員・学生が参加するとともに、茨城県、大洗町、NPO 法人大洗海の大学、常陽地域研究センター、筑波大学、土木学会関東支部茨城会、日本地質学会、茨城県北ジオパーク協議会などとも協力しました。そして、4月19日の中間報告会(参加者約200名)を経て5月31日「東日本大震災調査報告書」を発行し、さらに6月1日に報告会(参加者約180名)を行いました。被災地域の大学のなかでも全学的に震災調査に取り組んだ事例は珍しく、マスコミや県内自治体をはじめ学内外で大きな反響がありました。

これまでの調査から、①地震被害は液状化によって県内の広い範囲で発生した、②地質・地盤災害は常磐線や常磐高速道路、県内の主要道路や水道、ガスなどのライフラインの被害に波及した、③津波は県全域の沿岸部に大きな被害をもたらした、④地震、津波、原発事故、風評被害などが重なった複合災害であった、⑤社会・経済的影響の全体像は長期的にわたって把握する必要がある、といった結果が得られました。

したがって、①被害からの回復と復旧を急ぐ、②大震災被害・原発事故の影響の記録を残す、③大震災の経験を生かして災害時の避難や救援のあり方を点検する、④災害に強い地域・コミュニティづくりを進める、⑤余裕と多重性を重視する考え方を取り入れる、⑥災害廃棄物の適切な処理に取り組む、といった提言を行いました。

これらの調査は約2ヶ月間の速報をまとめたものであり、本学では今後も各班で調査を継続する予定です。



(左) 約180名が参加した報告会の様子 (右) 5月31日発行の調査報告書

## ◆ 茨城県へ災害義援金を寄附

池田幸雄学長（社会連携事業会会長）は、「東北地方太平洋沖地震」で被災された茨城県内の被災者支援及び被災地復旧のために募金活動を実施し、五百万円を災害義援金として茨城県に寄附しました。

この義援金は、本学の地域貢献活動等の支援を行う組織として設立されている社会連携事業会が、茨城県内の被災者支援、被災地復旧に積極的に貢献することを目的として募金活動を実施し、趣旨に賛同した教職員や一般の方々からの募金及び同社会連携事業会から拠出した義援金を災害義援金として寄附したもので、池田学長は、特に被害が甚大であった北茨城市や高萩市を中心に役立てていただきたいと語りました。

その後の懇談では、池田学長から、国立大学協会が実施している「国立大学における震災復興・防災・日本再生に係る教育研究組織一覧」や平成23年6月1日に開催された「茨城大学東日本大震災調査団」の調査報告会等について説明があり、橋本昌知事は、「今後も県内の被災地復興や防災・放射線への対応について、茨城大学と連携していきたい」と語りました。



記念撮影をする橋本知事（右）と池田学長（左）

## ◆ 平成22年度 教養科目推奨授業表彰式を挙行

大学教育センターでは授業の改善及び教育力の向上を目的として推奨授業の選定を行っています。この推奨授業表彰制度は2001年度に制定され、年度終了毎に教養科目の中から優れた取組みをし、成果を上げた授業を選定しているものです。選定の対象となるのは、専任教員が担当する正課授業で、「推奨授業推薦書」、「学生による授業評価」、「当該授業の成績評価」、「シラバス」などを基に人文、社会、自然、外国語（英語、未修外国語）、健康・スポーツ、情報科目の各代表者を中心にして教育上の努力や工夫、優れた教育技術や到達度などの観点から評価が行われています。

平成22年度の授業からは3件の授業、藤縄明彦教授（理学部）「水惑星の地球科学」、藤原智栄美准教授（留学生センター）「異文化理解」、永井典子教授（人文学部）「学術用英語」が選定されました。6月7日午後2時より、これら3人の教員に対して表彰式が執り行われ、池田幸雄学長より表彰状が授与されました。表彰式終了後3人の受賞者を囲んで懇談会を行い、受賞者それぞれの教養科目授業にかける意気込み、工夫、学生の反応などを中心に熱気あふれる話を取り交わされ、懇談会は盛況のうちに終了しました。

これらの授業には自由参観日が設定され、広く公開される予定です。



表彰式後の記念写真（前列左から、永井教授、池田学長、藤原准教授）

## ◆ 「六角堂」再建に向け周辺の海底調査を実施

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた五浦美術文化研究所の「六角堂」（国登録有形文化財）の再建に向け、6月14日（火）に付近の沖合で海底調査を行いました。調査は三輪五十二特命教授の指示のもと、午前10時30分から14時30まで約4時間にわたり六角堂の沖合から付近の岩場の海底を潜水土が搜索。沖合では何も発見できませんでしたが、六角堂付近の岩場で鬼瓦1枚を含む瓦約20枚とともに、創建当初のものとみられる屋根飾りの「擬宝珠(ぎぼし)」の一部を発見しました。

また、6日に行われた事前調査では鬼瓦1枚を含む瓦35枚と木片を発見しています。三輪特命教授は「本体が見つからなかったのは残念だが、予想以上にいろいろなものが見つかった」と話しました。今後、複製に向けた本格的な設計作業に入る計画で、早くて年内の再建を目指します。回収した瓦などは詳しく分析した後、震災の資料として保管する予定です。



平成 22 年 11 月 15 日撮影の六角堂



地震による津波で土台だけ残し流出



搜索場所の確認をする三輪特命教授（右から2人目）ら



擬宝珠と見られる一部を発見

◆ 茨城新聞広告賞優秀地域賞を受賞

6月29日(水)、茨城新聞に昨年4月から今年3月まで掲載された広告で、企画・表現・デザインに優れた紙面の広告主体を表彰する「第18回茨城新聞広告賞」が行われました。125点がノミネートされ、最終審査に残った28点から13点が選ばれ、茨城大学はその中の【優秀地域賞】に選ばれました。

広告は、「一緒に学ぼう! 茨城大学」と題して、人文学部、教育学部、理学部、工学部、農学部、5学部の在校生から受験者に対し、先輩からのメッセージを掲載するとともに、各学部の特色についてコンパクトに紹介しました。国立大学の広告が受賞するのはあまりないと関係者は話していました。

**知的好奇心をもって 挑戦しよう。**

**一緒に学ぼう! 茨城大学**

**人文学部**  
 先輩からのメッセージ  
 やりたいことに、興味があること堂々と挑戦しよう。  
 先生が持っている人文学部では、心身ともに健康で、学業も進んで、社会でも活躍できる人材を育てています。専門的な知識のほかに、幅広く深い教養を身につけてほしいです。上級生からのアドバイスで、この1年大学生活を有意義に、楽しく過ごしてほしい。先輩があなたの夢と希望のかけ橋になることを目指しています。ぜひ一緒に勉強も遊びも楽しんでほしいです。

**教育学部**  
 先輩からのメッセージ  
 思いがけない経験を通して成長することができます。  
 茨城大学教育学部では、教員を目指すだけでなく、教育に関わる様々な職業への就職、いろいろなことが可能です。先生が活躍する学校現場、児童福祉、教育行政、教育相談、ニースなどの施設、高齢者、障害者などへの支援活動にも参加して、実践を通して多くの学びを得ることができます。ぜひ一緒に学びましょう。

**理学部**  
 先輩からのメッセージ  
 夢から研究員になるまで、研究-実践-研究を繰り返します。  
 私は高校生の頃から生物に興味を持ち、理学部で生物を専攻することになりました。理学部では、基礎から最先端までの実験、講義、実習を通して学ぶことができます。また、理学部には、国際的な交流の機会も多く、海外での研究経験を通じて先生と関わり、新しいアイデアを生み出すことができます。4年次には研究発表会に参加することができます。私は目標を達成して、社会で活躍したいという夢を理学部で実現し、国際的な研究員として活躍しています。

**工学部**  
 先輩からのメッセージ  
 自分ひとりで興味がある分野を志して大学研究。  
 工学部には多くの分野があります。私は情報工学専攻で情報工学専攻です。少人数で学ぶことが多く、先生と学生が密にコミュニケーションをとりながら学ぶことができます。また、先生からの指導やアドバイスによって、自分の興味のある分野を深く研究することができます。先生からの指導やアドバイスによって、自分の興味のある分野を深く研究することができます。先生からの指導やアドバイスによって、自分の興味のある分野を深く研究することができます。

**農学部**  
 先輩からのメッセージ  
 自然の調和ある空間を育む過程、元気に笑顔をみせたいです。  
 私は農学専攻で農業と環境を専攻しています。農学は、自然の恵みを生かして、社会に貢献するための学問です。先生からの指導やアドバイスによって、自分の興味のある分野を深く研究することができます。先生からの指導やアドバイスによって、自分の興味のある分野を深く研究することができます。

**茨城大学 Ibaraki University**  
 〒310-8513 茨城県茨城2-5-1  
 ☎029-228-8064・8066  
 (学務課) 入学課 入学課  
 大学Web: http://www.ibaraki.ac.jp/

優秀地域賞に選ばれた広告 (2011年1月17日掲載)

## ◆ 役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会（第5回）を開催

平成 23 年 7 月 14 日（木）11:30 から、茨城大学事務局会議室において、第 5 回茨城大学役員と茨城大学同窓会連合会との懇談会を開催しました。

この懇談会は、茨城大学同窓会連合会の事業の 1 つである「茨城大学との連携及び協力」の一環として、毎年 1 回開催しているものです。



挨拶する池田学長

（左より神永理事・副学長、池田学長、久保田会長）

大学役員等関係者 18 名及び同窓会連合会関係者 10 名の出席の下、池田幸雄学長から近況報告があり、引き続き、各同窓会会長から各同窓会の近況報告や要望等の意見が提示されるなど、昼食をとりながら和やかに懇談が行われました。

日 時：平成 23 年 7 月 14 日（木）11：30～13：00

場 所：水戸キャンパス 事務局 2F 第 3 会議室

出席者：28 名

茨城大学（18名）		茨城大学同窓会連合会（10名）	
学長	池田 幸雄	会 長	久保田益充（理学部同窓会会長）
理事（副学長）	神永 文人	副 会 長	野口 芳男（文理・人文学部同窓会会長）
理事（総務・財務）	山本 恵一	〃	堀川 賢壽（教育学部同窓会会長）
理事（事業）	影山 俊男	〃	木曾 正明（多賀工業会会長 代理）
監 事	矢口 一美	代表幹事	佐久間 隆（理学部同窓会常任理事）
副学長	田中 重博	幹 事	糟谷 政和（文理・人文学部同窓会幹事長）
人文学部長	佐々木寛司	〃	佐藤 瑛一（教育学部同窓会幹事長）
教育学部長	尾崎 久記	〃	大貫 仁（多賀工業会幹事長）
理学部長	堀 良通	〃	黒田 久雄（農学部同窓会幹事長）
工学部長	友田 陽	会計監事	金子 一夫（教育学部同窓会幹事）
農学部長	太田 寛行		
総務部長	松田 栄二		
学術企画部長	川島 清人		
総務課長	塚田 昌毅		
社会連携課長	齋藤 勝男		
総務課長補佐	高松 尋一		
総務係長	廣瀬 孝一		
総務係員	奈良橋敏郎		

## 懇談会進行内容

11 : 30 懇談会開会

11 : 35~ 自己紹介

11 : 40~ 昼食

11 : 55~ 懇談会

池田学長から挨拶及び  
大学運営に係る近況報告

12 : 05~

意見交換

各同窓会会長等からの要望/意見等  
大学役員からの報告/意見等

12 : 55

閉会

13 : 00

写真撮影



懇談会の様子



懇談会終了後の記念撮影

## ◆ オープンキャンパスに6,099名の参加

本学では、去る7月23日（土）に平成23年度オープンキャンパスを開催しました。当日は暑い中、早朝から高校生や保護者が続々と来場し、6,099名の参加がありました。

正門前では、教職員と学生が、笑顔で大勢の参加者を出迎え、参加者は、学部説明会などを熱心に聞いたり、公開授業を聴講していました。

会場内の各種相談や入試相談コーナー、過去問題閲覧・配布コーナー、保護者説明会などどこも盛況で、とくに在学生による相談コーナーやキャンパスツアー、サークルパフォーマンスなど、学生の積極的な参加によるものが好評で、オープンキャンパスを終日盛り上げました。



在学生のサークルパフォーマンスを楽しむ高校生ら



キャンパスツアーの様子

## ◆ 工学部で原子力機構による大学公開特別講座を開催

工学部は、7月20日（水）日立キャンパス イノベーションルーム（E5棟8階）において、日本原子力研究開発機構の「大学公開特別講座」を開催し、教職員及び学生30名が出席しました。

はじめに企画担当の三枝幹雄工学部教授と友田陽工学部長から、日本原子力研究開発機構の研究者を大学に招き、最新の研究開発状況を説明いただく「大学公開特別講座」の開催趣旨説明と講師の紹介がありました。続いて、日本原子力研究開発機構安全研究センターの中村秀夫原子炉安全研究ユニット長から、「軽水炉事故時の炉心冷却と安全評価」と題した講演があり、安全研究の歴史的経緯をはじめ、軽水炉事故の事例や原子力機構による主な支援実績及び原子炉安全評価と解析手法等の現状について、丁寧な説明がありました。

講演後の質疑応答では、福島原発事故に関して長時間にわたり学生や教職員から多くの質問が出されました。専門家による解りやすい臨場感のある説明により、日頃の疑問を解消することができ、有意義な「大学公開特別講座」となりました。



講演する中村原子炉安全研究ユニット長



「大学公開特別講座」の講演風景

## ◆ 茨城県中小企業振興公社との連携協定に関する調印式について

本学と財団法人茨城県中小企業振興公社は、相互に連携を強化することで、新事業の創出、中小企業の技術革新等を推進し、茨城県経済の活性化を図るため、連携協定を締結しました。

調印式は、7月28日（木）茨城県開発公社で行われ、本学からは池田幸雄学長をはじめ6名が、公社からは上月良祐理事長をはじめ4名が出席しました。

これまで、本学と公社は、中小企業が抱える技術課題を解決するため、中小企業ニーズと大学シーズのマッチングを図ってきました。さらに本学は、中小企業との共同研究に積極的に参加し、公社とも連携して中小企業への支援を行ったり、公社各種委員会等へ参画し、専門的立場から助言等の役割を果たしてきました。

こうした状況を鑑み、さらに積極的に連携を進めることで協議を進め、本学は、社会貢献活動としての産学連携活動のさらなる推進につながることで、公社は、中小企業が求めるニーズに対する大学シーズのマッチングの推進が図れることから、両者の連携が強化することで、新事業の創出、中小企業の技術革新の推進が期待でき、茨城県経済の活性化を目指し、ここに協定を結ぶことになりました。

今後の連携活動として、さらなる中小企業のニーズと大学シーズのマッチング活動の推進、情報交換等の開催、各種委員会等への参画による情報交換等が挙げられます。



調印式の様子



握手を交わす池田学長（左）と上月理事長（右）

### 【出席者】

#### 茨城大学

池田幸雄学長、神永文人理事・副学長（学術担当）、影山敏男理事（事業担当）、矢口一美監事、中澤哲夫教授（産学官連携イノベーション創成機構）、川島清人学術企画部長

#### 茨城県中小企業振興公社

上月良祐理事長、坂本達男専務理事、渡辺博事務局長、奥川洋治事務局次長

#### 茨城県

横山仁一商工労働部長、守谷孝行商工労働部産業政策課長